

教科研究開発高度化系
人間発達探究コース 人間発達探究プログラム
専門科目：プログラム別問題

【出題の意図】

解答の形式：教育学分野、心理学分野、幼児教育分野、特別支援教育分野から1分野を選択し、
選択した分野の全ての問題に解答する（配点：問1，問2とも各50点）

〔教育学分野〕

問1 教師の専門性の向上を考える上で重要な概念として「学び続ける教師像」がある。ここでは、その基本的な知識を問うた上で、教師の専門性向上のため、実際にどのような実践が求められるか、その理解、および考え方の記述から、入学および入学後の学修に関する適性を判断する。

問2 近年授業における振り返りが注目されている。その意義（例えば、授業の最後に振り返ることによって授業で得られた結果の意味を考察することなど）について、学習指導要領において指摘されている。合わせて振り返りの課題（例えば、実技教科では振り返りに時間を割きすぎると実習の時間が確保できない）が指摘されている。授業における振り返りの意義と課題についての知識、理解および考え方の記述から、入学および入学後の学修に関する適性を判断する。

〔心理学分野〕

問1 教育実践においては、子どもが一人では達成できないことに対しても、周囲の大人が積極的に働きかけることによって子ども自身による達成を促していくことが重要である。問1では、この発想に関わる主要な心理的概念である足場がけ（足場づくり）とそれに基づく教育実践についての知識と理解を問い、教育実践への応用に関する考え方を記述させることで入学および入学後の学修に関する適性を判断する。

問2 教師が中学校で教育相談を行う際には、教育相談の理論や方法のみならず、青年期前期（思春期）にあたる生徒の心理的な発達や対人関係の特徴についても理解しておく必要がある。問2では、中学生の発達とその視点をふまえた上での中学校における教育相談上の留意点についての知識、理解および考え方を記述させることで入学および入学後の学習に関する適性を判断する。

〔幼児教育分野〕

問1 幼保小連携・接続の重要性は以前より指摘され、近年は国によって本格的に取り組みが進められている。「幼保小の架け橋プログラム」に関する知識、理解の記述から、入学および入学後の学修に関する適性を判断する。

問2 幼児教育における文字の指導では、あくまで日常生活の中で、幼児が文字などで伝える楽しさを味わえるようにすることが重要とされる。そのための必要な配慮や環境の工夫についての記述から、入学および入学後の学修に関する適性を判断する。

[特別支援教育分野]

問1 学校教育においては、児童生徒の抱える様々な困難さに対する配慮や支援が求められる。そうした配慮や支援を考える上では、「認知特性」と呼ばれる視覚や聴覚など感覚器官から受け取った情報を認識する力・理解する力・記憶する力・表現する力などの得意不得意や、それらの情報や感覚に対する反応性の高さについて留意することが重要であると知られている。認知特性についての具体的なアセスメントと支援の視点や配慮の方法についての知識や考え方についての記述から、入学および入学後の学修に関する適性を判断する。

問2 「特別な教育的ニーズ」を巡っては、障害のある子どもに限らず、外国につながる子ども、子どもの貧困、児童虐待、ヤングケアラー、性的マイノリティなど、多様な観点からの理解が必要である。そうした特別な教育的ニーズについての具体例とその理解や支援についての記述から、入学および入学後の学修に関する適性を判断する。